

ドクダミ

学名：*Houttuynia cordata* Thunb. 科名：ドクダミ科



じめじめと暑くなってきた季節に、やや日陰になっている路地や空き地などでよく見けるのがドクダミです。日本各地に自生し、触れたり、踏んだりすると独特な臭気があるのが特徴的です。白い花びらのように見えるものは、苞片（ほうへん）という蕾を包んでいた葉で、花にあたるのは中央にある花序です。普通は花序の一番下にある4枚の苞片のみが大きくなりますが、まれに苞片が発達して八重咲きになるものがあり、「ヤエノドクダミ」と呼ばれ、観賞用になっています。（左下写真）

『日本三大民間薬』の一つで、全草を煎じて利尿薬として用いたり、生の葉を腫れ物や湿疹などの患部にあてたりするなど民間薬として古くから利用されてきました。また、日本薬局方に収載されている生薬であり、「十薬（ジュウヤク）」といえます。漢方では主に皮膚疾患用薬に配合されています。

ヤエノドクダミ



生薬名	十薬（ジュウヤク） 局方生薬
薬用部位	花期の地上部
薬効	抗炎症、抗菌、利尿作用など
用途	漢方では皮膚疾患用薬に配合 五物解毒散（ゴモツゲドクサン）、 魚腥草桔梗湯（ギョセイソウキキョウトウ）



ジギタリス

学名： *Digitalis purpurea* L. 科名：ゴマノハグサ科



初夏から梅雨にかけて、紫色の花をたくさん咲かせ、すらっと立つ姿は優雅に感じます。ジギタリスはヨーロッパ原産で、日本には1879年に渡来したといわれています。花の形が手袋の指に似ていることから「キツネノテブクロ」とも呼ばれています。

ジギタリスの葉には強心配糖体の「ジギトキシン」が含まれ、心筋の収縮力と拡張力を増強する強心作用があり、狭心症やうっ血性心不全などの心臓疾患の治療に用いられてきました。医療用医薬品の原料として栽培されていますが、近年はジギタリスに代わって、近縁種のケジギタリス由来の「ジゴキシン」が医療現場で使われています。

人気の園芸品で、よく花壇で栽培されていることが多いですが、有毒植物であるためお子様やペットが誤食しないように注意する必要があります。

ケジギタリス *Digitalis lanata* Ehrhart



生薬名	ジギタリス
薬用部位	葉
薬効	強心、利尿作用
用途	ジギトキシンの製造原料



ルバーブ

学名： *Rheum raphaniticum* L. 科名：タデ科



ルバーブという野菜をご存知ですか？
食用ダイオウ、マルバダイオウとも呼ばれています。

ダイオウとは、中国西部原産のルバーブと同じタデ科の植物で、根茎は日本薬局方に収載されている「大黄（ダイオウ）」という生薬になります。大黄は「將軍」という異名を持つほど、漢方では重要な生薬の一つで、多くの漢方薬に配合されています。「センノシド」などを含有し、大腸を刺激して排便を促す瀉下作用があり、緩下薬として用いられます。

ヨーロッパでは、このダイオウを中国からシルクロードを経て取り入れ、優れた緩下薬として利用した他に食用として改良しました。それがルバーブです。

ルバーブは、ヨーロッパやアメリカではポピュラーな野菜で、日本では長野県や北海道で栽培され、旬は6月です。強い酸味があり、葉と茎をつなぐ葉柄（ようへい）の部分が食用です。葉はシュウ酸などを含んでいるため、食べることはできません。ジャムやパイなどとして料理されるのが一般的で、ジャムにすると酸味が和らぎ、甘酸っぱく美味しく頂くことができます。

ルバーブジャム作り



（本学・薬学アロマゼミにて）

生薬名	食用大黄（ショクヨウダイオウ）
薬用部位	茎（食用）
薬効	—
用途	食用

